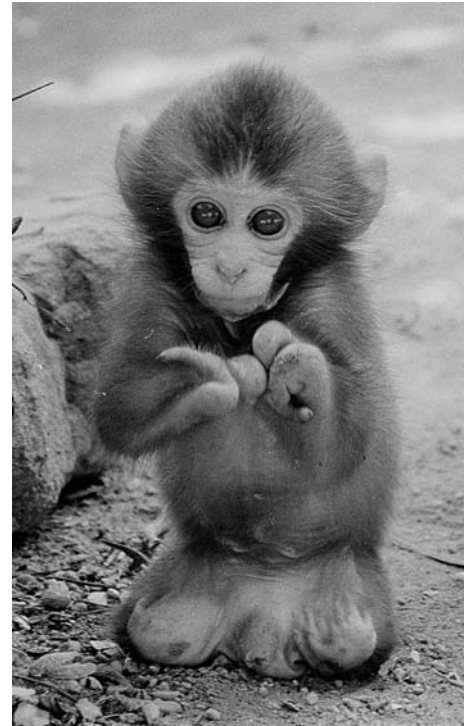




いのち 「生命みつめて おおたに えいじ -大谷英之 写真展-」 11月6日(土)~12月19日(日)



病患者の記録）、『人類への警告』（野猿に奇形が・・・）等の個展を次々と東京で開催しています。1977年、取材先の淡路島モンキーセンターで出逢った重度の障がいを持つ野生ザルを引き取り、その生涯を記録した『大五郎シリーズ』は彼の代表作の一つであり、妻・淳子さんのつづつた1997年出版のフォトストーリー『ありがとう大五郎』は異例のロングセラーとなり、韓国語、中国語にも翻訳され、出版されています。

指を持たない赤ちゃん猿のつぶらな瞳が、私たちがじっと見つめています。この写真は、大谷英之さんが1971年に淡路島で撮影した赤ちゃん猿で、人間の与えた餌を食べ続けた母親から障がいを持って生まれ、来たのです。その当時、全国のあちこちで餌付けされた野猿たちに障がいが出てきており、この小猿の姿は人間に対する生命をかけた警告のように見えます。1931年大分県湯布院

生まれの大谷英之さんは、写真店を営む父親の影響で写真に興味を持ち、高校卒業後、上京します。1953年に東京写真大学（現・東京工芸大学）を卒業後、ニッポン放送やフジテレビに30年余り勤め、主に番組宣伝用の写真を担当していました。仕事の傍ら、公害や職業病などを追ってカメラに収め、『白ロウ病の恐怖』（山林労働者の実態）、『ある闘い』（ハンセン氏

今回の写真展は、大谷英之さんが長年積み重ねてきた仕事の集大成と言える展覧会になります。いじめや虐待、幼い命を絶つ悲しい事件が毎日のように報道される昨今、この展覧会が生命の大切さについて考える機会になればと思います。みなさまのご来館をお待ちしております。（館長・北 泰子）

吉井勇記念館だより

吉井勇没後50年展 くもがけ、もがけ、そして上れ！



もがけ、もがけ、そして上れ！

今回の特別展では、掛軸・原稿・著書・手紙など、彼の書き残した資料に写真を加え、吉井勇を解き明かしていきます。また、吉井家と龍馬、高知との関係にも迫り、多方向からの視点で勇を捉え、紹介します。この機会に、ぜひご来館ください。

今年、没後50年を迎えた吉井勇。祇園歌人、伯爵歌人とも呼ばれ、明治・大正・昭和の3代で活躍しました。広く知られている華やかな印象とは異なり、その生涯は波乱に満ちたものでした。彼の置かれた立場、思い、そして世に求めたものが、はつきりと当時の作品に表れています。

【日時】12月6日(月)まで 9時30分~17時(入館受付は16時30分まで) ※火曜日休館(祝祭日の場合は翌日) 【料金】一般400円、高校・大学生200円、中学生以下無料 【問い合わせ先】吉井勇記念館 ☎58・2220

吉井勇作品紹介 龍馬編 その⑤

霜月のなかげの寒き、夜もあさく 龍馬斬られて 降り出でし雪
霜月 11月 夜もあさく 11夕刻。夜深し(夜中)と反対の意

図書館だより

市立図書館



第64回読書週間



【期間】10月27日(水)~11月9日(火) 【標語】気がつけば、もう降りる駅。

図書館では、読書週間に合わせて例年のように『おはなし会』を計画しました。たくさん参加をお待ちしています。

☆秋のおはなし会(本館) 【日時】11月6日(土) 10時~11時30分 【場所】図書館本館 【内容】おはなし・秋いっぱいカレンダー作り 【対象】幼児・小学生・保護者 【講師】堀地美香さん(高知市立横内小学校教員) 【問い合わせ先】本館 ☎53・0301 ☆文化展おはなし会 『おはなし動物園』 【日時】11月13日(土) 1部 10時30分

おすすめの1冊 『1Q84』BOOK3 (作:村上春樹) 恋愛小説?サスペンス?それとも、現代風黙示録?崩壊家族、無宗教、無縁社会の中を孤独に生きる二人、天吾と青豆は『Book3』の巻末で、手探り果てやっと再会することができた。作者のカフカ流変身手法を彷彿(ほうふつ)さす、みごとなエピソードも交えて人間の自己脱皮の可能性すら暗示してくる。追跡と逃亡のなか、標的破壊やこの小説中の小説も登場させ読み手に飽きを与えない。4巻の出版をも期待している。 市民 男性 74歳

第4回香美地区短詩型文学振興大会

(9月18日・中央公民館)

香美地区文化協会長賞

※ご紹介している受賞作品は市内の方の作品のみです。

【短歌の部】(選者 楠瀬兵五郎氏)

優秀 開会の挨拶してゐるプールにて 飛び来し鳩は水飲みて去る 都築 初代

優秀 連れ立ちし人すでになく折々に 眼裏に咲くシヤガの風景 佐竹 玲子

佳作 孫に買ひし陰地の松山殊更に 伸び行くさまを門に出て見る 小松 隆之

佳作 夜の庭になほも啼きある蟬のこゑ 雲すぎてふたたび月は輝く 小松もとみ

佳作 葛藤の日々もありしよ病む母の 爪を切りお身に寄り添いて 吉本 悦子

佳作 五十肩右腕かばいつつ目覚め 夫の作りしみそ汁を飲む えだ みち

【俳句の部】(選者 前田欣一氏)

特選 万緑へ穴掘る男牛飼い村 櫻谷 雅道

佳作 稲育つ水にも邑の掬あり 黒岩 幸子

佳作 農に生くしだいに鹹き玉の汗 黒岩千英子

佳作 蔵に米積みし昔や百日紅 前田 秀女

佳作 ごみ袋提げて八月十五日 橋本 昭和

佳作 鯛や過疎に止まる一軒家 西川 常夫

【川柳の部】(選者 常石麗子氏)

佳作 あなたの嘘知ってて煌めくイヤリング 櫻谷 雅道